

## I 事業の概要（地域の実情含む）

本市は、県の南端に位置し、南は宮城県、西は秋田県と接している。西に須川岳（栗駒山）をのぞみ、市内には、北上川、磐井川、砂鉄川が流れ、自然に恵まれた地域であるが、市全体が広域となり、自然災害に対する防災に関しては、それぞれの地域に応じた課題が存在している。

大原中学校は、一関市の東側に位置している。この地区には砂鉄川が流れており、土石流危険区域や急傾斜地崩壊危険箇所が多いため、洪水、土砂災害、地震を想定した防災教育が行われてきた。また、地域住民には一人暮らしの高齢者が多く、災害が起きた際に避難することが大変であるため、助け合うことや事前に協力して災害対策を行うことにも目が向けられてきている。

本事業においては、復興教育の3つの視点のうちの「かかわる」と「そなえる」を中心に取り組むこととした。「かかわる」では、「大原まちづくりの会」、大原小学校との連携を図り、「そなえる」では「大原自主防災組織」との連携を図ることを通して、地域の一員として生きる生徒の育成を目指し、教育課程を実施していくうえで無理なくできる、持続可能な復興教育の取組の在り方を確立することをねらいとして事業を実施した。

## II 取組の概要

### (1) 地域学習

#### ア 地域づくり学習講演会（9月11日）

「地域づくり復興ワークショップ」の事前ガイダンスとして実施。上町家守舎・花巻家守舎代表取締役の小友康広さんを講師に迎え、花巻市のマルカンデパート大食堂復活をはじめとする取組について話を聞き、生徒25人は経済や仕事への取組み方を学ぶとともに、地域振興の在り方について考えた。



### 生徒の感想

「地域の皆や、来る人にとって、価値があるものを残し、新しいことにチャレンジしていく」という話を聞き、考えが変わった。地域の皆で大原をどのようなく所にしたいのかビジョンをもって考えていくことが大事だと思った。人が少なくなっていくことだけに目を向けるより、人が住みやすく、楽しい街に変えていくことが大事だと思った。（3年生徒）

#### イ 地域づくり復興ワークショップ（9月16日）

自分たちの暮らす地域の今後を主体的に考える機会として実施。大原の課題や魅力、将来について、まちづくりの会の方々と活発に意見交換や議論を行った。



#### ウ 大原まちづくり提言発表会（12月19日）

地域住民や行政関係者、小学校教員を招き、3か月かけて練り上げた、大原のまちをよりよくするためのアイデアを提言としてまとめ、6つのグループによる発表を行った。空き家の有効利用や世代間交流、道の駅の開設、360年の伝統を持つ大原水かけ祭りの活用などグループごとにまとめた計画をプレゼンテーションや寸劇を交えて発表した。その後、参観した方々との意見交換を行った。



### 生徒の感想

実際に調べたり、アンケートをとったりすることによって、初めて知った事柄が多くて驚いた。提案するためには、まず自分たちが詳しく知らなければならないのだと改めて感じた。(3年生徒)

### 生徒の感想

実際に町の人から、私たちが考えた「若者と高齢者が手を取り合う町づくり」の案をととも良いことだと言っていた。今の大原を変えるには、まずは自分たちが地域の行事や活動に目を向けて、進んで参加し交流することが必要だと思う。(3年生徒)

## (2) 被災地支援活動

### ア 高田松原植樹祭への参加 (5月13日)

参加希望生徒 22 名が陸前高田市を訪問し、第2回高田松原植樹祭に参加した。一般の参加者とともに、50年後の大きく育った松を想像しながら黙々と苗木を植える作業を行った。

### イ 陸前高田市仮設住宅での支援活動 (8月1日)

復興ボランティアとして生徒 20 名、教職員 3 名が参加。仮設住宅周辺の草刈等の活動を実施した。



### 生徒の感想

今回の高田松原復興ボランティアに参加して、松の苗の植え方や、自分たちの植えた松が今後どうなっていくのかを学びました。松を植え終わった達成感と、自分たちが地域の復興に貢献したという喜びがありました。来年もこのボランティアに参加し高田の復興に協力していきたいと思いました。(2年生徒)

## (3) 防災学習

### ア 全校防災学習DIGの実施 (6月7日)

一関北消防署、大原地区の自主防災組織の代表の方々17名をアドバイザーに迎え、DIG(災害図上訓練)を実施した。

「地域をよく知る人から地域のことをよく聞いて学習してほしい」

大原まちづくりの会の熊谷さん



住んでいる地域について、川が近いのか、山が迫っているのか、田が多いか、お年寄り等助けが必要な人がいるか、頼りになる人はいるか等、地理的条件や人的条件を洗い出し、地域の強さ、弱さに気付くことから防災に向けた取組が始まることを学んだ。自分の住む地域を確認し、地区ごとに分かれてDIGによる作業を行った。

### DIGとは

Disaster・・・災害

Imagination・・・想像力

Game・・・ゲーム

Dig…「掘る」の意味から転じ「災害を理解する」「町を探求する」「防災意識を掘り起こす」



### 【今回の重点】

- ①災害だけでなく、不審者や交通事故等の危険箇所はないか。
- ②大原地区人口の4割にのぼる高齢者をどう救うか。

拡大地図で自宅や水路、道路、鉄道、田、公園等を確認し、決められた色でマーキングした。土地の特徴や気づいたことを付箋にメモして貼り、地域の強さ、弱さを考えながら災害を想像し、対策について話し合った。

その後、ポスターセッションでシェアリングを行った。互いの発表を聞きながら、災害によって逃げる場所が違うことや、自分が意識していなかったところで災害が起こり得ることについて考えることができた。



### 生徒の感想

担当の小野寺さんが川中地区のことを何でも知っていてすごく助かった。自分の地区に与えられた災害情報は「洪水」だった。川原町も中島も危険地区と初めて知ったので覚えておきたい。自分の地区はお年寄りが9割と多く、避難が大変だけど、若い人たちが全員を救いたいと思った。今回も参加できてよかった。(3年生徒)

#### イ 全校防災授業の公開 (9月7日)

学校安全アドバイザーの岩手大学越野客員教授を講師に迎え、全学級で防災授業を実施した。

学年	内 容
1年	【備える学習】 「防災リュックに入れるもの」
2年	【応急処置学習】 ゲーム教材「なまずの学校」
3年	【判断力学習】 ゲーム教材「クロスロード」

授業実施後、家庭でも保護者とともに防災について考える機会を設定した。



#### ウ 生徒会による避難訓練の実施 (12月10日)

生徒会執行部作成の企画書による、火災を想定した避難訓練を実施した。連携校にも案内した。

### Ⅲ 取組の成果と課題

#### 1 成果

##### (1) 地域学習について

- ・地域の活動やまちづくりへの関心が高まり、社会参画意識を醸成することができた。

##### (2) 被災地支援活動について

- ・被災地の現状について理解を深めるとともに、進んで郷土の復興に携わろうとする意識の醸成につながった。

##### (3) 防災学習について

- ・災害の怖さと命の大切さについて理解を深める

とともに、自然災害への日常の予防策や災害時の適切な判断、災害時における行動について考えることができた。

- ・「自助・共助」の意識が高まり、家庭や地域との連携を深め、地域ぐるみで防災意識を高めることができた。
- ・地域の一員としての自覚を高め、主体的に地域の復興・発展に取り組む心を育てることができた。

#### (4) その他

- ・活動記録をまとめた「復興教育記録写真集」を作成し、モデル地域内の学校等へ配付することで、取組の成果を生かし、実践を拓げることができた。



#### 2 課題

##### (1) 内容の充実について

- ・児童生徒が自らの安全を確保することのできる資質・能力を計画的に育成すること。
- ・地域や家庭、他校と連携した取組を継続、充実させること。

##### (2) 継続的に取り組むための方策について

- ・現在取り組んでいる活動や今までに取り組んできた活動を見直し、精選を図ることにより、効果的かつ持続可能な実践について吟味していくこと。

##### (3) 地域・他校との連携について

- ・各学校における年間行事予定との調整を図り、連携を図りながら実践を深めること。
- ・小中合同引き渡し訓練について、学校間で緊急時の引き渡し等について危機管理体制の整合性を確認するとどまったこと。今後、実際に訓練を実施し、家庭や地域と連携しながら、防災に関する啓発活動を進めていくことが望まれる。

